

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

|    |        |
|----|--------|
| 種別 | 児童養護施設 |
|----|--------|

### ①第三者評価機関名

|                   |
|-------------------|
| 一般財団法人社会的認証開発推進機構 |
|-------------------|

### ②施設名等

|             |                                                                                     |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 名 称：        | 和敬学園                                                                                |
| 施設長氏名：      | 樋口 文昭                                                                               |
| 定 員：        | 60                                                                                  |
| 所在地（都道府県）：  | 京都府                                                                                 |
| 所在地（市町村以下）： | 京都市上京区烏丸通寺之内上る東入相国寺門前町704番地                                                         |
| T E L：      | 075-241-3320                                                                        |
| U R L：      | <a href="http://syuzenkai.com/wakei-gakuen/">http://syuzenkai.com/wakei-gakuen/</a> |

### ③実施調査日

|         |           |
|---------|-----------|
| 開始日     | 2014/7/31 |
| 評価結果確定日 | 2015/2/9  |

#### ④総評

和敬学園は、大正13年、少年法による保護施設として認可を受け、お寺の本堂等を開放して少年保護事業を始めました。昭和45年に社会福祉法人化を行い、現在は、保育所心月保育園を法人内に併設し、児童養護施設として運営されています。「児童すべてが、将来あるかけがいのない存在として尊重されることを基本理念とし、一人ひとりに最善の支援を実施する」という養護方針や支援方針、和敬学園園歌等を「和敬学園要覧」に掲示し、長い歴史と実践に裏付けされた運営が行われている状況を垣間見ることができます。昭和58年に職員として入職した現園長は、できるだけ職員との対話から支援環境を構築することを大切に民主的な運営を行うことを旨とされ、また、同種事業所の施設長で構成する会のリーダーとして、業界を牽引する役割を担っておられます。

##### ◇特に評価が高い点

##### ○家族への支援も充実

平成16年度からは、家庭支援専門員を独立した専門職として配置して、計画的な親子関係の再構築にむけた支援が行われています。子ども目線家族目線でケースの把握・対応に努め、子どもと家族の関係づくりのために、子どもの意向や児童相談所との十分な協議を行ったうえで、面会や外出等柔軟に適宜適切に実施されている状況を聞き取ることができます。また、親子関係の再構築にむけたケースカンファレンスを実施し、改善にむけた実績の積み重ねに努力されている様子を伺うことができました。

##### ○権利擁護への取組み

「和敬学園要覧」には、養護方針・支援方針を柱とした規則正しい安定した生活が送れるよう健全で豊かな養育環境であること等を目指した「子ども達の生活」や「みんなが安全に楽しく生活するための約束」が明記され、子どもを尊重した養育・支援についてのあり方が職員と子ども、子ども同士の間においても浸透した実践が行われるよう努められている状況を伺うことができます。子どもの発達状況に応じて、可能な限り生い立ちに関する事実関係を伝え、フォロー環境を整えていくことや、「子どもの権利ノート（京都市児童相談所発行）」を活用して、「権利」に関して正しい理解を促し相談対応を行っていることは高く評価できます。また、入所時には子どもの不安を和らげるために夕食時に歓迎会を催したり、お誕生日には特別メニューを準備したりと、子どもたち一人一人が事業所からも他者からも大切にされているという実感をもって生活ができるような工夫が行われている状況を確認することができました。

##### ◇改善が求められる点

##### ○養育・支援の基本を着実に理解し行われることに期待

事業所としての歴史や実践知は大変高いものと拝察できますが、職員の入れ替わり等により現状では、新しい職員の育成に関する課題認識を持たれています。特に養育支援専門機関として、心理学的な見地から深い洞察力によって子どもを理解することや、子どもの措置背景を十分に理解し、一人ひとりの基本的欲求を把握し、より安定した生活環境を構築していく必要があると考えます。朝等の忙しい時間帯は必要以上に人員を配置できない関係から、一般家庭と比して一人ひとりを丁寧に支援し送り出すことが困難な点については課題としての自覚をお持ちですが、1日のはじまりを大切にしたい規律ある生活リズムを職員とともに精査されますことを期待しています。

##### ○職員の質の向上にむけて

事業所としての支援方針は、要覧等に掲げられているが、事業所が職員に求める基本的姿勢や意識に関する明示が確認できなかった。また、職員研修は行われているが、職員一人ひとりの教育・研修計画は確認できなかったのも、今後一人ひとりの研修計画策定のご検討をいただき、研修終了後も報告レポートや発表に基づいた評価・分析を行っていただき、次期の研修計画や研修内容・カリキュラムの見直しに役立てていただくことに期待しています。

##### ○中・長期的なビジョンと計画の策定に期待

運営理念や基本方針の実現にむけて、中・長期的なビジョンを描いた計画書等の確認ができませんでした。組織が求める人材育成計画や小規模ユニット化等にむけて段階的な計画やビジョンを職員や関係者と共有するための取組みが求められます。計画の内容によっては、しっかりと数値目標を設定し、適宜達成度を確認・評価する必要があるものも見受けられます。中・長期計画の策定プロセスにおいては、職員等の意向を反映する仕組みを汲み込みながら事業所全体として、組織的に取り組まれますことを期待しています。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回第三者評価の受審にあたっては、評価機関より施設でおこなった自己評価項目への聞き取りをはじめ、各職員や年齢別の児童への聞き取りをもとに、詳細に評価をしていただき、専門的観点によって適切なアドバイス（評価）を受けることで、当施設が求められることについて、整理ができ確認することができました。評価の良い点については、継続と更なる向上を図っていき、改善が求められる点については、毎年行う自己評価での取り組みの実施において、当評価委員会並び運営委員会のもと、職員全体で養育・支援の基本を着実に理解し、今後の援助（ケア）の充実に向けて職員の質の向上を図っていきます。また、組織としての見通しを持ち、中・長期的ビジョンの策定に向けて、人材育成計画や小規模化等の計画を職員の意向反映させていくと共に、全員が共有して実践していけるよう取り組みます。この度の評価結果を機に今後の施設（組織）運営の改善を図り、子どもの最善の利益の保障に努めたいと思います。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

| （1）養育・支援の基本 |                                                                  | 第三者<br>評価結果 |
|-------------|------------------------------------------------------------------|-------------|
| ①           | 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。                 | b           |
| ②           | 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。                  | b           |
| ③           | 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。                   | b           |
| ④           | 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。                                          | b           |
| ⑤           | 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。 | b           |

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・月に1回「子ども会」を部署職員とフロアの子どもたちが集まって話し合いを行っている。同じ生活空間だからこそころる諸問題(財布等の紛失、設備の破損等)について、大人だけで解決するのではなく一緒に問題解決に取り組んでいる。特に議題が無い場合であれば、ホットプレートを用いてのケーキ作りやフットサル等、子どもたちの要求に沿って「子ども会」の運営を実施していることを聞き取ることができる。

・個別に子どもたちとの信頼関係を築いていく具体的な実践として「なかよしタイム」を設定し、1人の児童に対し1時間前後の時間をとって、対話と遊びを通じてコミュニケーションを深めていることを聞き取ることができる。

・「和敬学園職員行動規範」を定め、子どもへの援助に関してとるべき行動や具体的基準を明文化している。加えて、洗濯などの家事を大人だけで行うのではなく子どもたちにも見える・学べる機会をもっていることを聞き取ることができた。

(改善が求められる点)

・朝の忙しい時間帯は人員体制の関係から必要以上に人員を配置できない関係から、一般家庭と比して一人ひとりを丁寧に支援し送り出すことが困難な点については、しっかりと自覚されていることから今後より良い方向へ改善されることを期待したい。

## (2) 食生活

第三者  
評価結果

|   |                                         |   |
|---|-----------------------------------------|---|
| ① | 食事は、団らんの中でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。 | b |
| ② | 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。              | a |
| ③ | 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。 | b |

## (3) 衣生活

|   |                                        |   |
|---|----------------------------------------|---|
| ① | 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。           | a |
| ② | 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。 | a |

## (4) 住生活

|   |                                         |   |
|---|-----------------------------------------|---|
| ① | 居室等施設全体がきれいに整美されている。                    | b |
| ② | 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。 | b |

（特に評価が高い点、改善が求められる点）

（特に評価が高い点）

- ・できる限り全員と一緒に食事を摂ることを大切に考え、午後6時から食堂で食べられるように設定しつつ、年齢に応じた生活のリズムにも対応するために個別にも夕食を摂ることができるようになっている。
- ・子どもの食事に対する希望の多さに柔軟に対応すべく、朝食は主食としてごはん・パン・コーンフレークから選択できるようになっていることを聞き取ることができた。
- ・「夕食会」というプログラムのもと、少人数のグループと栄養士が一緒になって調理をする機会があり、その場合は材料の買い出しから一緒に出かけたり等、食を通じた養育を行っていることを聞き取ることができた。

（改善が求められる点）

- ・嗜好調査を行い、しっかりと子どものニーズを得てはいるが2年に1回の頻度は少なく1年に1回の頻度での実施を期待したい。

| （５） 健康と安全                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                            | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-------------|
| ①                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。              | a           |
| ②                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。     | b           |
| （６） 性に関する教育                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                            |             |
| ①                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。 | b           |
| <p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）</p> <p>（特に評価が高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幼児については、夜尿が多い等配慮が必要となる点が個別支援計画に反映されており、毎朝子どもたちの排泄状況等についても夜勤から日勤職員へと勤務交代の引き継ぎ時にも連絡体制が適切に整っている状況を聞き取りから確認することができた。</li><li>・子どもたちの希望に応じて月に1回契約美容院に行くことができるようになっており、に身だしなみについても対応できる体制が整っている。また、理容か美容かを子どもたちの意向に沿って選択することもできるよう配慮されている状況を聞き取ることができた。</li></ul> <p>（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・児童に対する性教育に関する委員会が設置されていることを生かし、職員間における医療および健康に関しての学習の機会についても設けていくことが望まれる。</li></ul> |                                                            |             |

| (7) 自己領域の確保                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | a           |
| ② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | a           |
| (8) 主体性、自律性を尊重した日常生活                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |
| ① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | b           |
| ② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | b           |
| ③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | b           |
| <p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの所有物がユニット毎に個分けされ、コップや歯ブラシなども個別化されていることを確認することができた。こうした細やかな点から個人所有を前提にした環境づくりがなされ、園の運営の方向性として自己領域を確保するよう努めていることを聞き取ることができた。</li> <li>・子どもの生育の経過をいつでも振り返ることができるように一人ひとりに生育記録のファイルが作成され、日常の様子やイベント時の写真等が保存されている。このファイルは、子どもが自由に手にとって見ることもできるようにも配架され、面会に訪れる両親も見ることができるよう整備されていることを聞き取ることができることから (7) -②をA評価とした。</li> </ul> |             |

| (9) 学習・進学支援、進路支援等                    | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------|-------------|
| ① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。      | a           |
| ② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。   | a           |
| ③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。 | b           |

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・入所している子どもが成人を迎え、就職の節目を迎えてから継続措置のケースがあった場合においても、状況に応じて20歳を超えてからも受け入れる等、子どもの成熟の度合いに対して柔軟に対応できていることを聞き取ることができた。

・年に1回程度、ワイズメンズクラブの見学会や体験会をに参加する機会を設けている。こうした外部かつ異業種とも言える会に参加することで普段接する機会がない中小企業や同友会といった団体やそれに関わる人を知る機会となり、子ども自身のコミュニケーション力を育むと共に、卒園後のアフターケアも含めた進路支援の一環となっていることを聞き取りから確認することができた。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応

第三者  
評価結果

① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。

a

② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。

b

③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。

a

(11) 心理的ケア

① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。

a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・月に一度、職員同士での研修機会として「安心会」を実施し、現場での児童の問題行動への対処や対応について話し合いを行っている。それぞれの職員がもっている子ども観を共有できることに加え、複数の職員の支援内容がバラバラにならない等、より良い支援と援助につながっていることを聞き取ることができた。

・暴力防止・人権教育プログラムである“CAP”の研修・対人援助の研修など、施設外で実施される専門研修にも職員を積極的に派遣させ、資質向上に努めていることが確認できる。

・児童の自立支援計画等にセラピストの所見がしっかり記録され蓄積されていることを確認できる。セラピーについては子どもの状況と必要に応じて月に数回実施されているを確認することができた。

| (12) 養育の継続性とアフターケア                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | b           |
| ② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | a           |
| ③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | a           |
| ④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | a           |
| <p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所していた子どもが卒園してからもつながりを保てるようにと、年に1回を園が主体となって「卒園者の会」を実施していることを確認することができる。ほとんど連絡が無かった卒園児童もこの機会を契機に連絡を取り合ったり、来園することがあることを聞き取ることができた。そのため、退所後の居場所づくりやアフターケアなどの役割を発揮できている。</li> <li>・子ども一人ひとりのこれまでの状況を記録していくためのケース記録の様式に家庭支援用・アフターケアの欄を設けている。現在だけでなく退所後についての展望もの記録もしっかりと考えていく姿勢を確認し、聞き取ることができた。</li> </ul> |             |

## 2 家族への支援

| (1) 家族とのつながり                                                   | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------|-------------|
| ① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。 | a           |
| ② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。                     | b           |
| (2) 家族に対する支援                                                   |             |
| ① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。                             | a           |
| (特に評価が高い点、改善が求められる点)                                           |             |

（特に評価が高い点）

・平成16年から家庭支援専門相談員を専属で1名配置されていることを確認することができた。入所した中学生が支援を通して家族との絆を深めていった事例の話聞くことができ、家族と意思を通じあえるよう計画的な親子関係の再構築に向けた支援を行っていることを確認することができた。また、保護者支援の一環として児童相談所とも密な連絡を取り合い支援を行っていることを聞き取ることができた。

（改善が求められる点）

・親子が必要な期間を一緒に過ごせるような宿泊施設を施設内に設けていない現状にあることを確認することができたため、さらなる家庭支援環境の整備に期待したい。

### 3 自立支援計画、記録

| (1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定 |                                                              | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------|-------------|
| ①                       | 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。 | a           |
| ②                       | アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。          | b           |
| ③                       | 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。       | b           |
| (2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録  |                                                              |             |
| ①                       | 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。                                | a           |
| ②                       | 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。          | b           |
| ③                       | 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。                   | b           |

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・児童の自立支援計画に支援上の課題、問題解決のための支援目標が定められ、運営会議や職員会議といったケース会議で計画の見直しを実施していることが聞き取りから確認することができた。また、外部からファシリテーターを配置するなど工夫もみられ、計画立案、支援記録、アセスメント、報告を一体化させて職員の業務の効率化が図られている点についても確認できたことから3－(1)－1をA評価とした。

・子どもの心身の状況や生活状況を把握するための個別ファイルが作成されており、臨床心理士による心理アセスメント面接の所見がファイリングされている点を確認することができた。

(改善が求められる点)

・子どもや保護者等に関する記録の管理については副園長が管理し、統括主任が責任者であることを聞き取りから確認することはできたが、その記録の破棄に関する規定が確認することができなかったため規定の策定が望まれる。

## 4 権利擁護

### (1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮

第三者  
評価結果

|   |                                                           |   |
|---|-----------------------------------------------------------|---|
| ① | 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。       | a |
| ② | 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。 | a |
| ③ | 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。         | a |
| ④ | 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。         | b |
| ⑤ | 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。                                  | a |

### (2) 子どもの意向への配慮

|   |                                                             |   |
|---|-------------------------------------------------------------|---|
| ① | 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。   | b |
| ② | 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。 | a |

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・職員は、日々子どもとのやり取りを振り返り、近隣にある同志社大学から専門家を招いて、スーパービジョンを受ける体制及び実例があることを確認することができた。スーパービジョンを受ける際には、職員に対して、できるだけ子どもたちとのやり取りの中で何が課題であったかがわかりやすくケース検討が行われている状況の説明があり、以降の養育支援実践での効果を発揮している状況を聞き取ることができた。

(改善が求められる点)

・「和敬学園職員行動規範」第3. 安心で安全な暮らしの保障の中で、個人宛郵便物の無断開封や予告なしの所持品の確認を行わない等、子どものプライバシーを最大限に保障する旨が記載されているが、プライバシーに関するマニュアルがあるとなお良い。

| (3) 入所時の説明等           |                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------|-------------|
| ①                     | 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。            | a           |
| ②                     | 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。   | b           |
| ③                     | 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。    | a           |
| (4) 権利についての説明         |                                                                |             |
| ①                     | 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。                          | a           |
| (5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境 |                                                                |             |
| ①                     | 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。 | b           |
| ②                     | 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。          | b           |
| ③                     | 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。                        | b           |

(6) 被措置児童等虐待対応

|   |                                               |   |
|---|-----------------------------------------------|---|
| ① | いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。   | a |
| ② | 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。 | b |
| ③ | 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。       | a |

(7) 他者の尊重

|   |                                                             |   |
|---|-------------------------------------------------------------|---|
| ① | 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。 | a |
|---|-------------------------------------------------------------|---|

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

特に評価が高い点)

- ・入所時の子どもの不安を和らげるために、夕食時に入所児との自己紹介や歓迎会を開催するなどの工夫をし、子どもたち一人ひとりが事業所からも他者からも大切にされているという実感をもって生活ができるような工夫が行われている状況を確認することができた。
- ・「子どもの権利ノート（京都市児童相談所発行）」を活用して、「権利」に関して正しい理解を促し相談対応を行っている。

(改善が求められる点)

- ・入所時の施設の規則や面会・帰宅などの約束事、生活の様子などの説明について、「入所時の手続き」「入所時預かり物リスト」「要覧」が資料として作成されており、必要な情報提供はなされているものの、過去の「要覧」にあった日課や余暇活動、学習指導や園内行事についての内容が現在の資料では見受けられなかった。子どもや保護者にとってさらに安心して入所できるための工夫が期待される。

## 5 事故防止と安全対策

|   |                                                                    | 第三者<br>評価結果 |
|---|--------------------------------------------------------------------|-------------|
| ① | 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。                  | b           |
| ② | 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。                                       | a           |
| ③ | 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。 | b           |

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・ 毎年の消防訓練など、近隣の消防署との連携を積極的に行い、備蓄リストを備え、災害時の対応を整えている様子を聞き取ることができた。

(改善が求められる点)

・ 子どもの安全を脅かす事例について、「安心会議」を定期的を開催し、子どもからのヒアリングを行っているが、事例を残す仕組みが整備されていないことが聞き取れた。「安心会議」が子どもの安心・安全確保のための確かな仕組みになるよう、事例の整備と過去の事例を活かした取り組みが期待される。

## 6 関係機関連携・地域支援

### (1) 関係機関等の連携

第三者  
評価結果

|   |                                                                                |   |
|---|--------------------------------------------------------------------------------|---|
| ① | 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。 | a |
| ② | 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。                        | a |
| ③ | 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。                                     | a |

### (2) 地域との交流

|   |                                           |   |
|---|-------------------------------------------|---|
| ① | 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。  | b |
| ② | 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。          | b |
| ③ | ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。 | b |

### (3) 地域支援

|   |                                                |   |
|---|------------------------------------------------|---|
| ① | 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。              | b |
| ② | 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。 | c |

（特に評価が高い点、改善が求められる点）

（特に評価が高い点）

・子どもが通学している学校の教職員を交えて施設の心理士と職員とで事例検討会を年に2回実施し、関係機関との連携を積極的に行っていることが聞き取ることができた。  
・地域で開催される「文化のつどい」や「地藏盆」などに子どもたちが積極的に参加している様子を聞き取ることができた。

（改善が求められる点）

・児童養護施設が地域に溶け込みにくい側面がある中で、地域との交流として「学園祭」の案内や広報誌等の配布を行うなどの努力は一定の評価はできるものの、地域の福祉ニーズを把握し、地域での子育てに関する役割について、施設として地域に発信する余地がある。

## 7 職員の資質向上

|   |                                                      | 第三者<br>評価結果 |
|---|------------------------------------------------------|-------------|
| ① | 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。                       | c           |
| ② | 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。 | b           |
| ③ | 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。             | b           |
| ④ | スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。        | a           |

（特に評価が高い点、改善が求められる点）

（特に評価が高い点）

・園外研修担当者を配置し、外部研修についての情報提供と参加を積極的に促している様子を聞き取ることができた。さらに内部研修も毎月1回の予定で計画し実施している様子も聞き取れた。  
・大学教員によるスーパーバイザーを依頼し、外部スーパービジョンを受ける体制を整えていると同時に、施設内においては心理士が指導員等のスーパービジョンを行う体制を構築し、施設全体として職員一人ひとりの援助技術の向上を図っている様子を聞き取ることができた。

（改善が求められる点）

・「和敬学園職員行動規範」が策定されている一方で、中・長期計画の策定がなされていないことから、組織としての職員の教育・研修に関する基本姿勢の項目をCとした。職員の教育・研修に関して、中・長期計画の策定を行い、さらに職員一人ひとりの教育・研修計画の策定が望まれる。

## 8 施設の運営

| (1) 運営理念、基本方針の確立と周知                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                      | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------------|
| ①                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。                 | a           |
| ②                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。                  | a           |
| ③                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。           | a           |
| ④                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。     | b           |
| (2) 中・長期的なビジョンと計画の策定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                      |             |
| ①                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。                | c           |
| ②                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。                     | b           |
| ③                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。 | c           |
| ④                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。                | b           |
| ⑤                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。              | c           |
| <p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「和敬学園要覧」に「養護方針」「支援方針」「子ども達の生活」「みんなが安全に楽しく生活するための約束」「沿革」を明記し、施設の使命や考え方、方向性を示している。</li> </ul> <p>(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単年度の事業計画は策定されているものの、職員や子どもへの周知にまで至っていない。職員や子どもへの周知に向けた取組みを期待したい。</li> <li>・施設の運営に関する中・長期計画がない。施設改修に向けて「家庭的擁護推進計画」を作成しているが、計画作成のプロセスに職員の声が反映される仕組みを取り入れることが望まれる。</li> </ul> |                                                      |             |

| (3) 施設長の責任とリーダーシップ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | b           |
| ② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | a           |
| ③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | a           |
| ④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | a           |
| (4) 経営状況の把握                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |             |
| ① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | b           |
| ② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | b           |
| ③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | c           |
| <p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設長は、職員とのヒアリングを年に2回行い、各種会議等で、養育・支援の質の向上に意欲を持ち職員に示していることを聞き取ることができた。</li> </ul> <p>(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「施設長会」「全国児童養護施設協議会」や「専門研修」などで現在の社会的養護の動向について積極的に把握しようとしている一方で、職員への周知や改善に向けた施設を挙げた取組については、改善の余地がある。外部監査などの第三者の視点を活かした運営改善と合わせて、施設職員の力を活かした施設運営を期待したい。</li> </ul> |             |

| (5) 人事管理の体制整備                                                              | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。 | a           |
| ② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。                                              | c           |
| ③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。                             | b           |

|   |                                           |   |
|---|-------------------------------------------|---|
| ④ | 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。 | a |
|---|-------------------------------------------|---|

(6) 実習生の受入れ

|   |                                                               |   |
|---|---------------------------------------------------------------|---|
| ① | 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。 | a |
|---|---------------------------------------------------------------|---|

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

- ・予算が限られる中、施設が目標とする養育・支援の質を確保するために、「家庭支援専門相談員」を専門職として配置していることは高く評価できる。
- ・実習生受け入れ体制とプログラムについて、「実習生関係綴り」「社会福祉士援助技術実習プログラム」を準備し、積極的に受け入れと育成に向けた取組をしている。

(改善が求められる点)

- ・客観的な基準に基づいた定期的な人事考課がなされていないことから、客観性や透明性のある人事考課の仕組みを作ることが望まれる。
- ・職員との個別面接の機会はずでに設けられていることから、さらに職員の力を活かした施設運営に向けて、「運営会議」などの会議を活用して、改善策を検討する仕組みを作ることが望まれる。

(7) 標準的な実施方法の確立

第三者  
評価結果

|   |                                                             |   |
|---|-------------------------------------------------------------|---|
| ① | 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。                   | c |
| ② | 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。 | c |

(8) 評価と改善の取組

|   |                                                        |   |
|---|--------------------------------------------------------|---|
| ① | 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。 | a |
| ② | 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。      | c |

（特に評価が高い点、改善が求められる点）

- ・今回の第三者評価受審に向けて、自己評価、第三者評価を行う体制を構築し機能させていることを確認できた。

（改善が求められる点）

- ・被虐待児童に対する養育スキルトレーニング手法「コモンセンスペアレントトレーニング」など、標準的な実施方法は設定しているものの、全職員との共通理解にまでは至っていないことが聞き取れた。職員との共通理解、定期的検証、見直しを一連のシステムとして構築し実施できる体制を整えることが望まれる。
- ・第三者評価の受審については、今回が第1回目であることから、第三者評価受審を契機に、評価結果の分析や見直しについて職員と協働して取組むことを期待する。